

SHOW HEY シネマールーム

★★★

アンダードッグ (後編)

2020年/日本映画

配給：東映ビデオ/前編 131分、後編 145分

2020 (令和2) 年 12月1日鑑賞

シネ・リーブル梅田

Data

監督：武正晴

原作・脚本：足立紳

出演：森山未來/北村匠海/勝地涼

／瀧内公美/熊谷真実/水

川あさみ/富手麻妙/萩原

みのり/新津ちせ/友近/

秋山菜津子/芦川誠/二ノ

宮隆太郎/上杉柊平/清水

伸/坂田聡/徳井優/佐藤

修/山本博(ロバート)/松

浦慎一郎/竹原慎二/風間

杜夫/柄本明

👁️👁️ みどころ

カネのためにボクシングを売った！そんな解釈もありうる、前編クライマックスでの晃VS宮木の対決後、後半は晃と龍太を軸にさまざまな人間ドラマが展開！

アンダードッグの晃をはじめ、登場人物のほとんどは負け犬に近い男女だから、それらの人間ドラマはそれぞれ深刻。さらに、6戦6勝6KOと前途洋々だった龍太さえ、ある悲劇が！

そんなドロドロ劇が続く中、ラストでは超満員の後楽園ホールで、晃VS龍太の8ラウンドの激突が実現！そこに至るまでの両者の意地とは？関係者たちの執念とは？そして、試合の勝者は？

— * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — *

■□■後編は人間ドラマから！その1は？その2は？■□■

健二と新次という2人のボクサーを主人公にした、前・後篇で5時間4分のボクシング映画『あゝ、荒野』(17年)、『シネマ41』50頁)は、前編のハイライトとなる4回戦ボーイとしてのデビュー戦はちょっとした小手調べ程度のもだったが、後編のクライマックスとして設定された2つの試合は“大興奮間違いなし”の絶品だった。それを考えると、本作前編ラストに設定された、晃と宮木との4回戦エキシビジョンマッチは、前編のクライマックスとしては十分な迫力があり、感動モノだったから、ボクシング映画たる劇場版後編への期待は強まる一方だ。ところが、そんな期待にもかかわらず、後編は人間ドラマから！

人間ドラマその1は、宮木との試合を終えた後、がっばりファイトマネーをもらい、すっきり現役を引退するはずだった晃が今なおズルズルしていたところ、既に別居していた妻・佳子(水川あさみ)から呼び出しを受けて喫茶店で会うシークエンスから始まる。「俺

も話がある」と、やっとボクシングからの引退を告げて復縁を期待していた晃に対して、佳子からは「再婚するから（離婚届にハンコを押して）」と切り出されたから、何という悪（好？）タイミング……。さあ、晃はどうするの？

後編の人間ドラマその2は、暴力的な恋人に居場所が見つかった明美（瀧内公美）がDV被害を受ける物語。その被害は娘の美紅（新津ちせ）にも及んでいたようで、ある日、晃は明美から半分冗談のように、「この子の父親になってよ・・・」と言われたが、さて・・・。

■□■後編の人間ドラマその3は幼い息子との男のドラマ！■□■

後編の人間ドラマその3は、晃と一人息子・太郎（市川陽夏）との“男のドラマ”だ。前編でも太郎はテレビのリモコンを切る母親・佳子を振り切って、あくまで晃と宮木の試合を必死に観ていた。これは、とっくに晃のプロボクサーとしての夢も才能も見切っていた佳子と違い、太郎は父親の才能と夢を信じ続けていたためだ。

妻から別の男との再婚とそのための離婚を告げられた晃は、改めて自分がボクシングから引退できるかどうかを苦悩していたが、宮木とのエキシビジョンマッチのインチャキ性を子供心にしっかり見抜いていた太郎から、その試合内容をとがめられ、「ボクシング、好きなんですよ？お父さん、世界チャンピオンになりたいんですよ？」と言われると、さらに激しく動揺することに。さあ、晃の完全引退はホントにあるの？あるとすれば、それはいつ？いやいや、それとも・・・？

■□■後編の人間ドラマその4は大村の現在、過去、未来！■□■

後編の人間ドラマその4は、前編の導入部でアンダードッグとしてトレーニングを続けている晃のジムに時々やって来ていた大村龍太（北村匠海）の現在と過去を明らかにする物語。“その過去”では、親に捨てられ、半グレとして児童養護施設で育てられた龍太を救ってくれた現在の愛妻・大村加奈（萩原みのり）との愛情秘話が明かされる。さらにここでは、なぜ大村がボクシングを目指すようになったかのちょっとしたエピソードも明かされるので、それにも注目！

他方、“その現在”では、前編のクライマックスとして描かれた晃 vs 宮木の4回戦エキシビジョンマッチの前座試合でプロデビューし、見事勝利を飾った龍太が、公私ともに充実した生活の中で、6戦6勝6KOと快進撃を続ける姿が描かれる。半グレだった10代の龍太を救ってくれたのは、第1に愛妻の加奈だが、第2の恩人は、施設にボクシングを教えに来てくれた若かりし頃の晃だった。そんな晃の日本タイトル戦を観てボクサーを目指した龍太の夢は、“かませ犬”ではない晃とリングで拳を突き合わせること。“今の俺なら、頑張れば、そんなチャンスもあり。”そう考えた龍太は、いろいろと晃にちょっかいを出していた（？）わけだが、たしかに今の龍太なら世界挑戦も射程距離に！

ところが、そんな中、半グレ時代の“ある因縁”が龍太に対して“ある事件”を引き起こし、龍太は左目を負傷してしまうことになったから、さあ大変！ボクサーにとって目は命。このままでは龍太の選手生命が断たれること間違いなしだが、まだ今なら・・・？さ

らに、もし傷を負った左目が見えなくなっても、右目さえ無事なら、生まれてくる子供をしっかりと見ることも可能。そう考えた龍太は、“ある決断”を下すことに・・・。

■□■後楽園ホールは満員！2人の激突は？■□■

2020年も12月に入ったが、コロナ禍に襲われた2020年は大変な年になったから、大みそか恒例のボクシングのビッグタイトルマッチが開催できるのかどうかも不安。そんな観点からは、アンダードッグのボクサー晃と、左目の負傷のため世界タイトル戦への道を断たれた若手ボクサー龍太との8ラウンド対決（の撮影）が、2020年2月17日と18日の丸2日間にわたって行われたのは、超ラッキー。もし1か月後に設定されていれば、その撮影はきっとできなかつたはずだ。

前編のクライマックスを飾った晃VS宮木瞬（勝次涼）の対決は、宮木の恋人・愛（冨手麻妙）から招待を受けた宮木の父親（風間杜夫）が観戦し、息子の死闘に感動していたが、後編のクライマックスを飾る晃VS龍太の激突をリングサイドで見守る面々は・・・？この激突は、前編導入部から伏線でチラリチラリと見せていた晃と龍太との因縁によるものだから、タイトルマッチには程遠いものながら、男と男の意地がぶつかり合ったものになる。晃の息子・太郎はもちろん父親の勝利を確信していたが、龍太の愛妻・加奈も、生まれたばかりの子供を抱えて必死に龍太を応援していたのは当然だ。他方、この試合の直前、執拗なDVによって自らの手で一人娘・美紅を傷つけるまでに精神的に追い込まれてしまった明美は、その時点でやっと晃から「一緒になろう」と言われたが、果たしてそんなことが可能な？晃の車に乗って警察署に出頭した明美に対して、晃は「待っている」と語りかけたが、それを聞いた明美のその後の決断は？

『あゝ、荒野』は前篇・後篇通じて全篇ボクシング映画だったが、本作の後編は、中盤まではボクシング映画とは程遠いさまざまな人間ドラマになっていた。しかし、やっとラストに至って、ボクシング映画らしい展開になってくる。そして、晃と龍太の激突は、前編と本作中盤までに描かれたさまざまな人間ドラマでの登場人物たちが固唾を飲んで見守る意地の激突になっている。スピードと若さでは断然龍太。他方、経験とテクニックでは断然晃だ。さあ、そんな2人のクライマックスの激突は？途中でダウンするシーンも見られるはずだが、後楽園ホールをこれだけ満員にする観客を集めているのだから、試合は必ず最終第8ラウンドまで行きつくはずだ。しかして、その最終ラウンドでしっかりリング上に立っているのは、どちら？それは、あなた自身の目でしっかりと！

2020（令和2）年12月7日記